

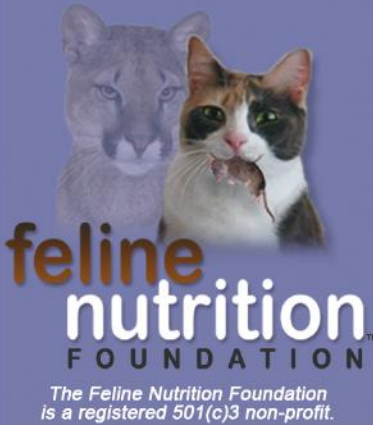


「猫にとって炭水化物が必要ないことは全く知られていない。」

国立研究協議会の猫栄養学
科委員会より

ドライフードの問題点

- 水分含量が低すぎる
- 炭水化物含量が多すぎる
- 動物性ではなく植物性の
蛋白質
- 食べ過ぎの原因となる
- 糖尿病、炎症性腸疾患
その他の病気の原因が示唆
されている
- 歯をきれいにする効果は
ない



ドライフードの危険性

ドライフードを猫の食事から取り除くことはとても重要です。この一つの変更だけで、猫の健康を改善するための大きな第一歩になります。たとえプレミアムフード、処方食、若しくは「自然食」であっても、ドライフードは穀類がベースとなっており、その炭水化物含量は25～50%になります。猫にとって炭水化物は全く不要な栄養素であり、ただ肉の味がするだけの穀類食は、猫の健康障害の原因となり得ます。猫の生理機能、及び同種の動物が数千年に渡って食べてきたもの（即ち生の獲物）を考慮すれば、穀類が猫の食生活の一部とはなり得ないことは明らかです。以下に、猫用ドライフードの問題をいくつかあげます。

水分含量が低い

ドライフードの水分含量は10%以下です。猫にとっての自然な獲物であるネズミの体内に含まれる水分が65～75%であることを考えてみましょう。猫は体にとって必要な水分を新鮮な生の食べ物から摂取するようにできているわけですから、本来なら水を飲まなければならなくなることは殆どないのです。食事及び飲み水から摂取する水分を全て合わせても、ドライフードを食べている猫は、缶フードを食べている猫に比べて、半分以下の水分しか摂取できていません。この慢性的な脱水状態により、尿が過剰に濃縮され、その結果尿管障害につながります。



ドライフードは歯をきれいにするわけではない。

炭水化物含量が多すぎる

一般的に炭水化物はエネルギー源と考えられていますが、猫科動物は蛋白質や脂肪をエネルギー源として利用するようにできており、その分炭水化物を消化する機能は限られています。猫にとって自然な食事、即ちネズミ、ウサギ、虫、鳥などの炭水化物含量は2%未満です。ドライフードに含まれる過剰な炭水化物は肥満の原因となり、また糖尿病との関連性も示唆されています。

動物性ではなく植物性の蛋白質源

完全な蛋白質は必須アミノ酸を豊富に含み、肉、家禽類、魚、卵などに含まれます。豆類、穀類及び野菜類から得られるものは不完全な蛋白質であり、これらからは猫が必要とする必須アミノ酸（例えば動物性蛋白質には含まれるタウリンなど）を摂取することはできません。

食べ過ぎの原因となる

猫は、独特の仕組みで食事の後の満腹シグナルを発します。猫は、蛋白質と脂肪が豊富でそのかわり炭水化物が殆どない環境で発達してきたので、蛋白質と脂肪の摂取が猫が食べるのを止めるべきタイミングを知るためのシグナルとして発達してきたのです。これに対し炭水化物の摂取ではこの効果は得られず、結果として食べ過ぎ及び肥満を引き起こしてしまうのです。炭水化物たっぷりの食事を食べ過ぎることで、インスリンの多量分泌が繰り返されます。こうして代謝系に絶え間ないストレスが加わることで、多くの猫が糖尿病になってしまいます。

猫の健康増進にご協力ください

フィーライン・ニュートリションへのご参加は無料です。猫の食生活を変えるために何が出来るかを、一緒に学習していきましょう。



詳細

詳しくは、[FelineNutrition](http://FelineNutrition.org) をご覧ください。このサイトには、科学的根拠に基づいた猫の健康及び栄養学の情報が満載です。[Facebook](https://www.facebook.com/FelineNutrition) では FelineNutrition として登録しておりますので、皆様の投稿も大歓迎です。

FelineNutritionFoundation.org